

【概要】

基礎薬学 実習では、有機化学実習()、()と生薬学実習を行う。有機化学実習では講義で学んだ有機化合物の物性や、反応性に関する知識や有機化学の概念について実験を通して説明できることを目的とし、生薬学実習では生薬を取り扱う上で必要な知識と技術を説明できることを目的とする。

有機化学実習()：実験を行う上で必要とされる実験器具の取扱い方を説明できる。化学反応による官能基の検出、混合物の分離・精製を行うことで有機化合物の物理的、化学的性質とともに化学実験の基本操作を説明できる。

有機化学実習()：簡単な出発原料から、薬品合成に用いられる単位反応を行い目的化合物を合成する。その過程で有機化学実験の反応、後処理、単離、確認同定に関する技術を修得する。

生薬学実習：様々な生薬、薬用植物を用いてその有効成分を抽出し、医薬品として利用する基本操作、品質評価技術を修得する。漢方薬を用いて証(しょう)や構成生薬など、特徴や応用方法を修得する。

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による